

友澤研究室（環境社会学・公害環境思想史）

教員名：友澤 悠季

◆ どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

- ✧ 現在の社会は、ひとびとの長い時間にわたる**経験の積み重ね**の上に成立しています（＝歴史性）。当研究室では、環境学の原点である「日本の経験」（たとえば公害）の意味を、「**質的調査**」を通じて研究します。
- ✧ 出発点となるのは、“「環境」をめぐる現実のむずかしさはどのような社会的力学から生まれてきたのだろうか？”“変えにくい社会を少しでも変えていくために、ひとびとはどう苦闘してきたのだろうか？”といった疑問です。
- ✧ 「**質的調査**」とは、当研究室においては、①「**下調べ**」：特定のテーマをえらんで資料（本、論文、新聞記事 etc）を読み、知識を整理する作業 ②「**取材**」：下調べを踏まえて調査の計画を立て、特定の地域を実際に歩き、見て、ひとの声を聞き、記録をつける作業のふたつを指します（＝フィールドワーク）。これを総合して「論文」というかたちにまとめます。
- ✧ 大きな目標は、地域社会の中で「**新たな道**」を模索してきた／しているひとびとの存在に触れ、**自分なりに理解したことを表現する（誰かに伝える）**ことです。一見「科学」の対象ではなくても、ひとびとが暮らしの中ではぐくんできたものの考え方（＝思想）には、わたしたち個人にとって、また社会にとって、むずかしい現実を打開するためのたくさんのおもしろいヒントが詰まっています。



「近代化」経験の象徴のひとつ・足尾銅山



「味わう」ことも調査の一環

◆ 先輩はどんなところに就職しているの？

2016年度開室です。「公害」「環境」といわれても正直ピンと来ない…という方も歓迎です。大学生という貴重な瞬間に「質的調査」に取り組んで得られた知見と経験は、その後の人生にもきっと役立つと思います。